

表 7 - 1 1 - 3 0 注目すべき陸生貝類の影響予測結果

(2/2)

種名	確認状況など	生態など	影響の内容と程度
ウメムラシタラガイ	対象事業実施区域内の スギ林で秋季2個体確認された。	県内では余呉町、木之本町、高月町、多賀町、永源寺町、水口町、甲西町に分布する。自然度の高い森林の林床の落葉枝層に生息し、既知の生息地では個体数は少ない。	移動能力が低く、工事による森林伐採などで個体数の減少は避けられないが、周辺地域の同等の林地環境に生息している可能性はあり、事業の実施による影響は中程度と予測される。
オオウエキビ	対象事業実施区域内外の スギ林で夏季1個体、秋季4個体、対象事業実施区域外のスギ・コナラ混交林で秋季1個体確認された。	詳細不明。広域分布種。主として落葉広葉樹林の落葉下に生息する。(環境省レッドリスト附属資料より)	移動能力が低く、工事による森林伐採などで個体数の減少は避けられないが、同等の林地環境は周辺地域に広く見られ、本種も確認されていることから事業の実施による影響は中程度と予測される。
ヒメカサキビ	対象事業実施区域内の スギ林で夏季1個体、 秋季2個体確認された。	詳細不明。リター層、落葉下などに生息。山地性種、自然度が高いところに生息。(なごやで探そう!カタツムリより)、広域分布種。広葉樹林などの落葉下に生息する。(環境省レッドリスト附属資料より)	移動能力が低く、工事による森林伐採などで個体数の減少は避けられないが、周辺地域の同等の林地環境に生息している可能性はあり、事業の実施による影響は中程度と予測される。
コベソマイマイ	対象事業実施区域内外の スギ林で夏季1個体採取した。対象事業実施区域外のヒノキ林、花壇、道路で夏季1個体ずつ確認した。対象事業実施区域内の草地、農道で秋季1個体ずつ確認された。	県内では長浜市、山東町、彦根市、多賀町、甲良町、永源寺町、日野町、土山町、水口町、甲賀町、甲南町、信楽町、甲西町、大津市、高島町に分布する。森林の林縁部で草本や低木が生い茂った環境に見られ、低山から平野部の山裾に生息することが多い、地上棲。	移動能力が低く、工事による森林伐採などで個体数の減少は避けられないが、同等の林地環境は周辺地域に広く見られ、本種も確認されていることから事業の実施による影響は中程度と予測される。
マメマイマイ	対象事業実施区域外の 駐車場草地で夏季2個体確認された。	県内では彦根市、多賀町、土山町、水口町、甲賀町、甲西町、石部町、安土町、近江八幡市、栗東市、草津市、大津市に分布する。比較的開け草本が茂る森林で確認され、個体数密度は高くない。草本上や樹幹、木や草の葉裏に見られる。	確認地点に工事の影響は及ばないことから、事業の実施による影響はないと予測される。
タワラガイ	対象事業実施区域外の スギ・コナラ混交林で 夏季3個体、秋季1個体確認された。	県内では西浅井町、湖北町、伊吹町、山東町、米原町、彦根市、多賀町、八日市市、永源寺町、日野町、水口町、石部町、草津市、大津市、朽木村に分布する。自然林やスギ植林の林床に生息する。	確認地点に工事の影響は及ばないことから、事業の実施による影響はないと予測される。

魚類については14種、底生生物については177種が現地調査で確認された。

対象事業実施区域内の水生生物の主な生息域である野川とため池2箇所については、土地利用等の計画の制約上、現状で保存することが困難であり、対象事業実施区域内については生息環境が消滅するため、移動能力の高い水生生物は工事に伴い逃避し、低いものは死滅すると予測される。しかし周辺の生息環境については工事による改変はないため、生息する種の存続に影響はないと予測される。また一般に森林が消滅した場合、水質浄化機能の低下や、保水機能が低下して流況の変化幅が大となるなどの結果に伴って、魚類につ

いては生息魚種の単純化(種数の減少)等の変化が生じる可能性があり、底生動物についても汚濁耐忍種の占める割合が高くなるなど出現種の構成に変化が起こる可能性がある。

濁水の影響については、水質・底質の予測結果によると、野川のSS濃度は現況と比較してほとんど変化はないかやや低下し、下流河川の水質を著しく悪化させる可能性は小さいと予測されている。底質についても河床に堆積しやすい比較的粒径の大きな粒子は大部分が対象事業実施区域内の仮設沈砂池や洪水調整池で除去されることから野川や佐久良川に堆積する可能性は小さいと予測されている。したがって、対象事業実施区域下流河川の水生生物の生息状況は、底生動物に汚濁耐忍種の出現頻度が若干増える可能性はあるものの、生息状況に著しい変化はないと考えられる。

注目すべき動物として抽出した各種については以下のように予測される。

表 7-11-31 注目すべき水生生物の影響予測結果

(1/2)

種名	確認状況など	生態など	影響の内容と程度
カワバタモロコ	対象事業実施区域内の池で多数確認された。また、区域外北西部の池でも確認された。これらの池は他の水域との接続が無いことから、それぞれ独立して生活、繁殖していると考えられる。	本種は日本固有種で、本来の分布地は静岡県以西の本州、四国の瀬戸内海側、九州北西部で、不連続かつ局所的な分布である。平野部の小川や浅い湖沼・ため池、用水路に生息し、水流のほとんどない水生植物が繁茂する場所を好む。繁殖期を中心に表層を少数で群れをつくり遊泳することが多い。県内では湖東地域、湖南地域、甲賀地域に分布する。孵化直後の仔魚はワムシ類を好んで捕食する。成長に伴って雑食性に移行し、水生小動物や付着藻類などを餌とするが、暖期には水草も食べる。	事業計画では本種が確認されたため池は工事により消失し、この池の個体群は消滅することから、事業の実施による影響は大きいと予測される。
ヌマムツ	対象事業実施区域内外の野川で確認された。この河川を主な生息環境としていると考えられる。	本種は静岡県から琵琶湖周辺、瀬戸内海沿岸を経て九州の有明海沿岸河川まで分布し、県内では全域の河川の中・下流部や水路に分布する。用水路や湖沼などの緩やかな流れを好み、カワムツと類似した生活史を持っていると考えられる。カワムツと共存する河川ではより下流側に分布するが、混棲する場合もある。食性は動物食性の強い雑食性で、水生昆虫や水面に落下した昆虫、藻類などを食べる。	対象事業実施区域内の野川については河川付替えされるため、生息範囲が縮小すると思われるが、区域内より区域外のほうが確認個体数が多く、主要な生息地は区域外と考えられるため、事業による個体群への影響は軽微である予測される。
ドジョウ	対象事業実施区域内の池と隣接する湿地、およびそれらをつなぐ沢で確認された。また、区域内の野川や区域外の水路などでも確認された。対象事業実施区域内の池周辺には他に水域が無いため、その他の確認地点との交流は無いと考えられる。	本種は日本、中国大陸、台湾、朝鮮半島に分布し、県内では全域の平野部に分布する。流れの緩やかな水路、河川、浅い池沼、水田や湿地などの泥底部、砂泥底部に生息する。冬は泥に潜って冬眠する。雑食性で泥中の有機物やユスリカの幼虫など底生生物を主に摂食する。	対象事業実施区域内の野川については河川付替えされ、ため池については工事により消失し、確認された個体群は消滅する。区域外で確認された個体については工事の影響は及ばないが、区域内のため池は主要な生息地の一つと考えられるため、本種に対する事業の実施による影響は大きいと予測される。

表7-11-31 注目すべき水生生物の影響予測結果

(2/2)

種名	確認状況など	生態など	影響の内容と程度
ホトケドジョウ	対象事業実施区域内を流れる野川、およびそこへ流入する沢やその上流の湛水部で確認された。特に湛水部から沢にかけて当歳魚を含めた多数の個体が確認されたことから、この環境を生息・繁殖に利用していると考えられる。	本種は日本固有種で、青森県、中国地方西部を除く本州、四国に分布し、県内では湖東地方、湖北地方、湖西地方、湖南地方に分布する。水温が低く流れの緩やかな中山間部の水路や河川、小さな溜池、湿地、水田等といったいわゆる里山的環境に生息する。他のドジョウ類と異なり、植生が多い環境を好み、中層を遊泳することが多い。雑食性で、魚類、甲殻類、藻類等を食べる。	対象事業実施区域内で確認された個体群は、工事により消滅することから、事業の実施による影響は大きいと予測される。
ミナミメダカ	対象事業実施区域内の池や区域外の水路、池などで確認された。確認された池は独立しており、それぞれの池の周辺には他に水域が無い。また水路で確認された個体も、他の地点と接続している可能性は低い。したがって、確認地点間での交流は無いと考えられる。	メダカ南日本集団の内、東瀬戸内型に分類されると考えられる。県内では全域の平野部に広く分布する。小川や水路、浅い池沼、川の流れの穏やかな岸辺、水田などの水面に群れて生息し、主に動物プランクトンや小型の落下昆虫を食べ、底生生物や付着藻類なども食べる。	対象事業実施区域内のため池で確認された個体群は工事により消滅する。区域外で確認された個体については工事の影響は及ばないが、区域内のため池では確認個体数も多く、主要な生息地の一つと考えられるため、本種に対する事業の実施による影響は大きいと予測される。
ドンコ	対象事業実施区域外を流れる野川と佐久良川、および対象事業実施区域内の池で確認された。これらの環境を生息場所として利用していると考えられる。	本種は愛知県・新潟県以西の本州、四国、九州、韓国巨済島にのみ分布し、主に西日本に分布する。県内では琵琶湖・瀬田川流入河川の中・下流部や水路に分布する。流れが緩やかで底質が砂礫の、河川や湖、池沼、水田、用水路等に生息し、夜行性で昼は石の下や水生植物の陰などに潜んでいる。動物食で、夜間に魚類・水生昆虫・甲殻類等小動物を幅広く捕食する。	対象事業実施区域内のため池で確認された個体群は工事により消滅する。区域外で確認された個体については工事の影響は及ばないが、区域内のため池では確認個体数も多く、主要な生息地の一つと考えられるため、本種に対する事業の実施による影響は大きいと予測される。
マルタニシ	対象事業実施区域外の佐久良川と野川(No.2)で確認された。本種の生息環境は用水路などであること、確認地点は周辺に水田が広がっていることを鑑みると、周辺の用水路から流されてきた個体が確認された可能性が高い。	本種は北海道～沖縄に分布し、県内では全域に分布する。水田、用水路、内湖などの泥底に生息する。雑食性で泥の表面などの付着藻類や水底の沈殿物を主に食べる他、水中の懸濁有機物を摂食する。	確認状況および生態から、今回確認されたのは周辺の水田地帯から流入してきた個体である可能性が高く、また確認地点に工事の影響は及ばないことから、事業の実施による影響はないと予測される。
ドブシジミ	対象事業実施区域外の佐久良川(No.1)で確認された。確認地点を含む周辺地域一帯を生息環境として利用していると考えられる。	本種は本州、四国、九州など各地の淡水域に分布し、県内では米原市、草津市、東近江市、高島市に分布する。主に流れが穏やかでかつ小規模な用水路、クリークや河川の砂礫底ないし泥底あるいは水田に生息する。多数の個体が生息する水路においても翌年には確認できなくなるなど個体数が著しく変動する事例もある。	確認地点は事業による直接的な改変を受けず、工事区域からの濁水流出による影響は現況と同程度以下であることから本種への影響は軽微であると予測される。
キイロサナエ	対象事業実施区域内外を流れる野川(No.2、No.7)、および区域内のため池(No.4)で確認された。周辺地域一帯を広く生息・繁殖に利用していると考えられる。	本種は本州、四国、九州、種子島に分布し、県内に広く分布する。平地～低山地の砂泥底が優占する緩やかな流れに生息するが、大きな河川の他、用水路など小規模な流れにも生息する。成虫は5～7月にみられる。幼虫は肉食で、あごを伸ばして小さな水生生物を捕食する。	対象事業実施区域内の野川については河川付替えされ、ため池については工事により消失するため、確認された個体群は消滅する。区域外で確認された個体については工事の影響は及ばないが、区域内は主要な生息地の一つと思われるため、事業の実施による個体群への影響は中程度と予測される。

### (3) 評価

#### ① 評価の方法

評価は、環境の保全上の目標と予測結果および環境保全のための措置を対比し、その整合性を検討するとともに、動物への影響が実行可能な範囲内で回避または低減されるか否かについて検討することで行った。

#### ② 環境保全のための措置

環境保全のための影響の回避・低減対策は以下のとおり計画している。

##### A. 工事中

- ・ 伐採工は工事区域全域を一斉には行わず、土工および仮設防災工の実施に先立ち、区域を区切って順次行う。
- ・ 対象事業実施区域内には概ね林帯幅30m幅の残置森林または造成森林を配置し、約13%の残置森林を確保するとともに、造成森林と合わせて約29%を森林として確保する。
- ・ 造成森林には高木性樹種の苗木H=1.0mを2,000本/haの密度で植樹する。また、植樹下部には種子吹付(三種混合：メドハギ・ヨモギ・チガヤ)により植栽を施し緑化に努める。
- ・ 裸地の法面や自然緑地の辺縁部の緑化については、法面整形が終了した箇所から逐次早期緑化に努める。
- ・ 法面勾配1:1.8以上の切盛土部については、侵食防止のため種子吹付による緑化を行うことを基本とする。法面勾配1:1.5以下の長大切土部については、比較的傾斜角が大きく地質により吹付けのみでは定着しづらい可能性があるため、育成基盤の保持、流下水による法面表層部の剥落防止を図るため、ネット張植生工による法面緑化を行う。

##### B. 工事完了時

- ・ 販売する工場用地については、工場立地法に適合するよう概ね20ha毎に造成森林を配置し、森林の再生を行う。

#### ③ 環境の保全上の目標

動物の環境の保全上の目標は、自然環境の保全上支障を招かないことを基本として、次のように設定した。

貴重な動物の保存に努めること。 直接改変区域周辺の動物の生息状況に著しい影響を与えないこと。
---

④ 環境の保全上の目標との整合性の検討

注目すべき種として抽出した125種の予測結果の概要は表7-11-32に示すとおりであり、24種については影響が中程度、5種については影響が大きいと予測された。特にカワバタモロコ、ホトケドジョウについては個体群の消滅が危惧され、その他の種についても個体数の減少等が考えられる。影響を回避・低減するためには生息場所を工事区域から除外することが望ましいが、土地利用および造成計画上、ため池2カ所や谷筋を工事区域から除外することは極めて困難であるため、代償措置として以下の環境保全措置を講じることとした。

表7-11-32 注目すべき種の予測結果の概要

分類群	種名	予測された影響の程度				分類群	種名	予測された影響の程度				分類群	種名	予測された影響の程度					
		ない	軽微	中程度	大きい			ない	軽微	中程度	大きい			ない	軽微	中程度	大きい		
哺乳類	ホンドザル		○			鳥類	エゾムシクイ		○			昆虫類	キトンボ			○			
	ホシシユウカヤネズミ	○					センダイムシクイ		○				ナツアカネ		○				
	オンドリ		○				セッカ		○				ヒメアカネ		○				
	マガモ		○				ヒレンジャク		○				ミヤマアカネ	○					
	カイツブリ		○				コムドリ		○				ハルゼミ		○				
	アオバト		○				カワガラス	○					ヒメコミズムシ	○					
	ミソゴイ			(秘匿)			トラツグミ		○				コオイムシ		○				
	ゴイサギ		○				クロツグミ		○				ゴシロシタバ	○					
	アマサギ		○				コマドリ		○				コキベリアオゴミムシ			○			
	チュウサギ		○				ルリビタキ		○				クロケブカゴミムシ	○					
	コサギ		○				ノビタキ		○				スジヒラタガムシ	○					
	ヒクイナ		○				エゾビタキ		○				コガムシ	○					
	ホトトギス				○		コサメビタキ		○				ミユキシジミガムシ		○				
	ツツドリ		○				キビタキ			○			オオセンチコガネ		○				
	ケリ		○				オオルリ		○				ハイケボタル		○				
イカルチドリ		○			カヤクグリ		○			マクガタテントウ	○								
コチドリ		○			ピンズイ		○			ケブカツヤオオアリ		○							
タシギ		○			タヒバリ		○			トゲアリ		○							
クサンギ		○			ベニマシコ		○			ヤマトアシナガバチ	○								
イソシギ		○			ウソ		○			モンズズメバチ		○							
ミサゴ			(秘匿)		アオジ		○			アオスジクモバチ	○								
ハチクマ			(秘匿)		クロジ		○			クロマルハナバチ	○								
鳥類	ツミ			(秘匿)		両生類	ヤマトサンショウウオ			○		陸生貝類	ヤマクマガイ	○					
	ハイタカ			(秘匿)			アカハライモリ	○					ナガナタネガイ			○			
	オオタカ			(秘匿)			ニホンアカガエル			○			ツムガタギセル	○					
	サシバ			(秘匿)			トノサマガエル			○			キヌツヤベッコウ	○					
	ノスリ			(秘匿)			ナゴヤダルマガエル	○					ウメムラシトラガイ			○			
	クマタカ			(秘匿)			シュレーゲルアオガエル			○			オオウエキビ			○			
	フクロウ				○		モリアオガエル				○			ヒメカサキビ			○		
	カワセミ			○			爬虫類	ニホンイシガメ			○			コベソマイマイ			○		
	ブッポウソウ			(秘匿)				スッポン	○					マメマイマイ	○				
	アリスイ		○					ヒガシニホントカゲ			○			タワラガイ	○				
	オオアカゲラ		○					ジムグリ					○		カワバタモロコ			○	
	アカゲラ		○					ヒバカリ					○		ヌマムツ	○			
	アオゲラ		○					ニホンマムシ					○		ドジョウ			○	
	チョウゲンボウ			(秘匿)				昆虫類	アオイトトンボ		○				ホトケドジョウ			○	
	ハヤブサ			(秘匿)					カトリヤンマ		○				ミナミメダカ			○	
サンショウクイ		○			アオサナエ				○			ドンコ			○				
サンコウチョウ			○		フタスジサナエ					○		マルタニシ	○						
コシアカツバメ		○			オグマサナエ					○		ドブシジミ		○					
ヤブサメ			○		エゾトンボ					○		キイロサナエ			○				
オオムシクイ		○			コノシメトンボ					○			種数	22種	62種	24種	5種		

1) カワバタモロコ、ドジョウ、ミナミメダカ、ドンコについてはため池の箇所の上に先立ち、3号洪水調整池へ移殖する。移殖後の生存率を高め、増殖を図るため、3号洪水調整池内に隠れ家となる構造物や産卵基質となる落葉や植物、ヤシ繊維のマット等を設置す

る等、これらの種の生息に適した環境を設けるように努める。

- 2) ホトケドジョウについては生息が確認された野川および沢筋の工事に先立ち採集し、流水のある沢筋（区域外東側の谷筋を想定）へ移殖を試みる。
- 3) ため池2ヵ所と野川の河川付替え箇所に生息するニホンイシガメ、フタスジサナエ、オグマサナエ、コノシメトンボ、キトンボ、キイロサナエについては、カワバタモロコ等の移殖時に併せて捕獲されれば、3号洪水調整池へ移殖する。
- 4) ヤマトサンショウウオについては、工事に先立ち、早春季に卵嚢を採集し、生息適地に移殖する。
- 5) フクロウ、サンコウチョウ、ヤブサメ、キビタキ、ジムグリ、ヒバカリ、ニホンマムシの生息環境を再生するため、改変区域の樹林の表土を土工前に採取して、資材置き場で仮保存し、工場用地外周の造成森林部および法面形成時に樹林表土をまきだし、埋土種子による再森林化の促進を試みる。造成森林部については自然な起伏を形成し、水分条件に変化が生じるようにして多様な植分形成を誘導する。また緑化にあたっては、餌動物の再侵入促進等、できるだけ多様な生物相の形成を実現できるよう努力する。
- 6) ニホンアカガエル、モリアオガエルの生息環境を再生するため、改変区域の湿地の表土を土工前に採取して、3号洪水調整池の周囲で仮保存し、1号洪水調整池および2号洪水調整池の完成後、仮保存した湿地の表土をまきだし、湿地の再生を誘導することでカエルの他、トンボ類やガムシ類などの水生昆虫の生息環境再生を試みる。
- 7) エゾトンボ、コキベリアオゴミムシについては、工事区域内で繁殖している可能性があるため、工事に先立ち採集および生息適地への移殖を試みる。
- 8) ナガタネガイ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビについては、生息の可能性があるスギの落葉を採集し、対象事業実施区域に隣接するスギ植林へ落葉ごと移殖を試みる。
- 9) 上記の環境保全措置の効果を確認するため、各洪水調整池、ビオトープにおいて移植した動物の生息状況、その他生物の利用状況をモニタリングする。

なお、影響が軽微であると予測された種については、影響の程度が極めて小さいと考えられることから事後調査の対象とはしない。

哺乳類の生息状況については、本事業の実施により、改変区域内の森林や草地は伐採・改変されるため、そこに生息あるいは行動圏としている中型哺乳類は、周辺部分への移動を余儀なくされ、小型哺乳類については、対象事業実施区域の森林が消滅することにより、

採餌や繁殖活動等、種の存続に関わる事柄に一時的に影響が及ぶ可能性があるものの、工事終了後、植栽樹の成長に伴い、周辺の森林や緑地が安定すれば、これらの哺乳類は周辺部分まで戻ってくるものと予測されること、対象事業実施区域の外周部分については残置森林として現状の植生が残され、また造成により出現する緑地や法面については植栽により一部が造成森林となり、哺乳類の移動に必要な経路は概ね確保されると予測されることから環境の保全上の目標と整合している。ただし、工業団地内の12m道路および9m道路については、各宅地とも防犯対策および獣害対策のためのフェンスが設置され、動物が移動経路として利用することは難しいと考えられること、付替水路(野川)の管理通路については片側はアスファルト舗装、もう片側は緑地帯のまま、円弧すべりが生じないような防災対策を講じたうえで舗装のない状態で、動物等の移動経路としても利用できるよう計画しているが、三面張りの緩い勾配であるものの河川を渡ることは難しいと考えられることから以下の対策を講じる。

10) 2号調整池の上流側にアンダーパスを1ヵ所整備し、移動経路の確保とロードキルの回避を図る。

11) 付替水路(野川)の3号調整池の上流側と下流側、1号調整池の上流側および2号調整池の上流側の4か所に河川横断用の床板を設置し、移動通路の確保とロードキルの回避を図る。

鳥類の生息状況については、樹林性の鳥や林縁部に生息する種は、事業の実施により周辺部の樹林へ移動して生息を続け、工事終了後は緑地や法面に植栽が施されるため開けた環境や林縁部に生息する種については、個体数が増加する可能性もあると予測されること、工事による騒音の影響については、現状でも隣接する国道307号や町道石原鳥居平線、日野第一工業団地や耕作水田等からの騒音があり、繁殖活動への影響は比較的小さいと予測されることから環境の保全上の目標と整合している。

両生類・爬虫類の生息状況については、これらの種は移動能力が低いものの、森林伐採や造成工事は数日といった短期間に行われるものではなく、比較的長い時間をかけて順次行われることに加え、対象事業実施区域から本能的に生息適地に移動する能力は保持していると考えられるため、生息環境は減少するものの、両生・爬虫類に与える影響は軽微であると予測されることから環境の保全上の目標と整合している。

昆虫類の生息状況については、改変区域内に生息する昆虫類の生息環境が減少することで個体数の減少を余儀なくされるものの、対象事業実施区域の周辺に分布するコナラ群落やアカマツ群落、スギ・ヒノキ植林、竹林、ススキクラスの草地といった環境は対象事業

実施区域内と同様であり、周辺地域にも普通に分布、生息していると考えられ、当該地域における種の存続に対する影響は軽微なものにとどまると予測されること、工事終了後は法面や緑地に施された植栽、樹林や林縁部の安定化に伴い、チョウ類、ハエ類など開けた環境を好む種が戻り、植栽木や緑化草本を食草とする種は増加する可能性もあると予測されることから環境の保全上の目標と整合している。

陸生貝類の生息状況については、移動能力に乏しい陸生貝類は本事業の実施により、改変区域内に生息する種の多くが消滅あるいは個体数の減少を余儀なくされるものの、対象事業実施区域の周辺に分布するコナラ群落やアカマツ群落、スギ・ヒノキ植林、竹林、ススキクラスの草地といった環境は対象事業実施区域内と同様であり、周辺地域にも普通に分布、生息しているものと考えられ、当該地域における種の存続に対する影響は軽微なものにとどまると予測されることから環境の保全上の目標と整合している。

水生生物の生息状況については、周辺の生息環境については工事による改変はなく生息する種の存続に影響はないと予測されるものの、対象事業実施区域内については生息環境の多くが消滅し、移動能力の高い水生生物は工事に伴い逃避し、低いものは死滅すると予測された。また、一般に森林が消滅した場合、水質浄化機能の低下や、保水機能が低下して流況の変化幅が大となるなどの結果に伴って、魚類については生息魚種の単純化(種数の減少)等の変化が生じる可能性があり、底生動物についても汚濁耐忍種の占める割合が高くなるなど出現種の構成に変化が起こる可能性があるが、水質・底質の予測結果によると、野川のSS濃度は現況と比較してほとんど変化はないかやや低下し、下流河川の水質を著しく悪化させる可能性は小さいと予測され、底質についても河床に堆積しやすい比較的粒径の大きな粒子は大部分が対象事業実施区域内の仮設沈砂池や洪水調整池で除去されることから野川や佐久良川に堆積する可能性は小さいと予測されることから、対象事業実施区域下流河川の水生生物の生息状況に著しい変化はないと予測され、環境の保全上の目標と整合している。

## ⑤ 評価

予測を行った注目すべき動物のうち、予測結果と環境の保全上の目標と整合が取れていない種については環境保全措置を講じること、直接改変区域周辺の動物の生息状況については予測結果と環境の保全上の目標が整合していることから、実行可能な範囲で影響を回避または低減できていると評価する。